

学校名	甲州市立勝沼中学校	教科	道徳 社会
研究主題	確かな学力を育む学習指導の在り方 ～個別最適と協働的な学びを実現させる ICT の効果的な活用の探求を通して～		

1. 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ①ICT の効果的な活用の探求
- ②Google アプリケーションの効果的な活用
- ③「情報社会に生きる読解力・記述力育成事業（副教材）」の活用

(2) 具体的な研究活動

- ①ICT の効果的な活用の探求
  - ・各教科における ICT の積極的な利活用をすすめた。ほぼ全ての教科で Chromebook やデジタル教科書を活用した。
  - ・諸行事においても、ICT を活用したリモート生徒集会・学園祭・研究会・PTA 学年部会等を実施した。様々な可能性を発見するとともに、どんな状況下であっても教育活動を止めない手法を集めることができた。



生徒総会【生徒会本部】



生徒総会【各教室】



地域の伝統祭りの事前学習

- ・ICT の活用を通して、「個別最適な学び」・「協働的な学び」の実現をめざした。例えば、家庭科では、エプロンのポケットの付け方の動画を用意し、生徒が Chromebook を活用して自分のペースで学びをすすめ、学び直すこともできる工夫を行った。道徳科、社会科では、それぞれの考えを「Jamboard」に書き込み、意見の集約・共有・見える化を図る工夫を行った。英語科では、理想の学校づくりをテーマに作品作りを行った。その過程で班ごとに画面を通して対話しながら理想の学校の要素について Jamboard で意見を集約し考えをまとめた。さらには、学校紹介の英文を「ドキュメント」を使用した共同編集により作成した。同時に ALT とも対話しながら英文の修正等の指導を受けた。まとめたアイデアを確認しながらポスターを作成する姿も見られた。

家庭科【動画教材】による【個別最適な学び】



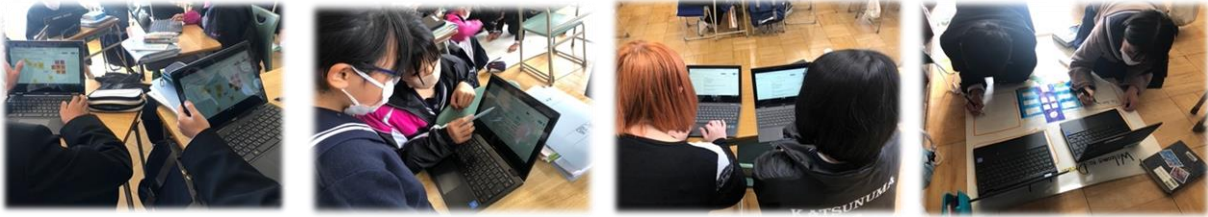
社会科【画像からの読み取りと意見集約】



道徳科 自己内対話【意見集約】からの対話



英語科 個から始まる【協働的な学び】



②Google アプリケーションの活用

- ・「授業×Google アプリ」という一覧表を作成した。それを元にしながらか授業の活動の中でどのGoogle アプリケーションを使用すれば、その授業・活動が豊かなものになり、生徒たちにとって「個別最適な学び」あるいは「協働的な学び」につながるのかを考えた。

授業×Google アプリ一覧表

	A. 共有機能	B. 個別学習	C. 協働学習
chrome	検索や授業資料の検索・印刷の書き込みや共有、ウェブページの印刷などを行うことができる。	デジタル教材の活用により、自分の進捗に合わせて学習することができ、自分のペースで学習することができ、自分の進捗の進捗に応じて学習を進めることができる。	タブレットや電子辞書などを使用し、豊富な授業資料や辞書・辞書などの活用が期待されている。また、授業資料の活用が期待されている。
ドキュメント		インターネットを用いた情報収集(検索機能) Webアプリを用いたシミュレーション(B2: 思考を深める学習)	共有機能を利用した共同編集(C2: 協働での意見整理)
スプレッドシート			共有機能を利用した共同編集(C2: 協働での意見整理)
スライド	画像を大型テレビで映し出す(A1: 教員による教材の提示)	ドラッグアンドドロップアクティビティ(B1: 個に応じた学習)	発表資料作成、発表(C1: 発表や発表会) 共有機能を利用した共同編集(C2: 協働での意見整理)

ドキュメント	スプレッドシート
<p>共有機能を利用した共同編集</p> <p>内容 共有機能を使うと1ファイルに多くの生徒が編集に参加することができる。 共有機能を利用した共同編集 共有機能を利用した共同編集(C2: 協働での意見整理)</p> <p>必要とする準備・留意点 ドキュメントはGoogleドキュメントを作成し、共有機能で編集できるように設定しておく。 共有機能を利用した共同編集(C2: 協働での意見整理)をするときのマナーをあらかじめ指導しておく。</p>	<p>共有機能を利用した共同編集</p> <p>内容 共有機能を使うと1ファイルに多くの生徒が編集に参加することができる。 共有機能を利用した共同編集(C2: 協働での意見整理)</p> <p>必要とする準備・留意点 ドキュメントはGoogleドキュメントを作成し、共有機能で編集できるように設定しておく。 共有機能を利用した共同編集(C2: 協働での意見整理)をするときのマナーをあらかじめ指導しておく。</p>

③「情報社会に生きる読解力・記述力育成事業（副教材）」の活用

- ・県から配信される副教材を授業で自由に使用することができる。また、それらを編集することが可能であるため、生徒の実態に合わせた編集・使用が必要だと感じた。教科担当者は試験前の復習などに使用した。

2. 研究の成果と課題 (○成果 ●課題)

①ICT の効果的な活用の探求

- 「ICT をまずは授業で活用してみる」というハードルを越えることができた。
- ICT の活用を考えることで、年代を越えた職場内対話が生まれ、協働体制が高まった。
- 実際に ICT 活用していくことで、デジタルだけに頼らず、アナログの準備が必要であることなどにも気づくことができた。
- 研究一年目であったが、職員の ICT 活用研修がもう少し必要であった。活用を推進していくために、年度の始めや夏季休業を使い校内自主研修会を企画してみたいと思う。
- 生徒のタイピング力の差異とトレーニングの必要性への対応を行っていく必要がある。

②Google アプリケーションの活用

- 授業で使えるアプリケーションを示すことで、活用する目的や場面をイメージしやすかった。
- 今年度同様に、実践事例を集約していきたい。また、アプリケーションを組み合わせた活用方法や、その活用の際に必要な準備・留意点などもまとめることができると再現性がある事例集になると考える。

③「情報社会に生きる読解力・記述力育成事業（副教材）」の活用

- 発展問題や復習としての活用ができた。こちらで編集が可能のため活用しやすかった。
- 生徒の実態に合わせて問題や難易度を考えて再編集し、活用していきたい。
- ICT 端末だけでは問題を解くことができないため、ノートなどのアナログの準備をした上で行っていきたい。

④その他

- 一年間の研究を通して、ICT 機器の操作・活用にも自信をもつことができています。
- 次年度、どのような状況下でも「子どもたちの学びを止めない」、「教職員の学びを止めない」という強い思いを大切に、ICT を使うことを目的とせず、「確かな学力」を育成することにフォーカスした上で ICT を積極的に活用したい。そして、そのことを通して、子どもたちや教職員が共に成長していく実践をめざし研究を進めていきたい。

3. 研究授業の概要【道徳】

(1) 主題名 よりよく生きる～弱さと向き合う～ D(22) よりよく生きる喜び(中学3年)

(2) 教材名 「足袋の季節」(出典:「新訂新しい道徳3」東京書籍)

(3) 本時のねらい

主人公の心の葛藤を考える活動を通して、自分の中にある弱さや醜さと向き合いながら強く生きようとする人間の姿のよさに気づき、よりよく生きていこうとする実践意欲と態度を養う。

(4) 本時の評価の視点

誰しも弱さや醜さを持っていることを理解し、それを乗り越える強さや気高さについて多面的・多角的に考え、これからの自分の生き方について考えを深めているか。(ワークシート)

(5) ICT活用のポイント

Google ジャムボードの付箋機能を活用することで、他の人の意見を見ることができ、多面的・多角的な考えに触れさせ、より自分の考えを深められると考える。

(6) 授業の展開

過程	□学習活動 ○基本発問 ◎中心発問 ・補助発問 ★ICT活用場面	・予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ◆評価の視点(方法)
導入	□「よりよく生きることについて考えよう」とねらいを提示する。 ・「人としてよりよく生きる」という言葉からイメージすることを書く。 ★Jamboardに事前に書き込んだものを提示し、必要に応じて考えをきく。	・他の人と関わりながら生きること ・周りを大切にして生きること	・これまでの授業で学んできた内容項目がすべて関わってくることを説明する。
展開	□初読の感想をきく。  ○「うん」とうなづいた時、どんなことを考えていたのだろう。  ○おばあさんの死を知り、「無性に腹が立った」のは、なぜだろう。  ◎許せないほどの後悔をした私は、どんなことを考えて生きていったのでしょうか。 ★Jamboardへ書き込む。(班の中で色分けする。)  ・私は、そのような生き方を通して、どんな気持ちになっているだろうか。	・後悔していてかわいそう。 ・最初から10銭玉だと嘘をつかなければよい。  ・おばあさんを見下していた。 ・後で謝ればよい。 ・ドキドキしていた。  ・自分を恥ずかしいと思った。 ・どうしようもないことをしてしまったと後悔した。 ・やり場のない気持ちに戸惑った。  ・自分のしてしまったことを償っていかうとしている。 ・他の人に同じような後悔をしてほしくないという気持ち。 ・ずっと落ち込んでばかりはいられない、前を向いて生きていこうとする強い決意。  ・いつまでも消えない後悔の念を抱えながらも、正しく生きることを教えてくれたおばあさんに感謝している。	・必要に応じて、当時の生活状況を補足説明し、自分の生活と比較するように促す。  ・様々な考えがあるが、どの考えも自分の行動を正当化するような理由になっていることに気付かせる。  ・おばあさんに対する醜い気持ちや自分を正当化する弱い気持ちがあったからこそ、強い後悔があったことをおさえる。  ・補助的に誰しも人には弱い気持ちや醜い考えがあることをおさえる。  ・Jamboardで他の人の意見を見ることで、多面的・多角的な考えに触れさせ、より自分の考えを深められるようにする。 ・誰にでもある弱さや醜さに対してきちんと向き合い、受け止めていこうとしている主人公の姿を捉えさせる。  ・よりよく生きることで感じる気持ちについてもふれる。
まとめ	○本時の授業で考えたことをもとに、これからの自分の生き方について考えよう。	・誰しももっている弱さや醜さに対して、どう受け止めて行動するかが大切だとわかった。	◆これからの自分の生き方について、授業の議論をふまえて考えを深めているか。(ワークシート)

# 【勝沼中学校・3年・道徳・よりよく生きる喜び】①

育成を目指す資質・能力

【活用場面】 C1（発表や話し合い）

主人公の心の葛藤を考える活動を通して、自分の中にある弱さや醜さと向き合いながら強く生きようとする人間の姿のよさに気づき、よりよく生きていこうとする実践意欲と態度を養う。

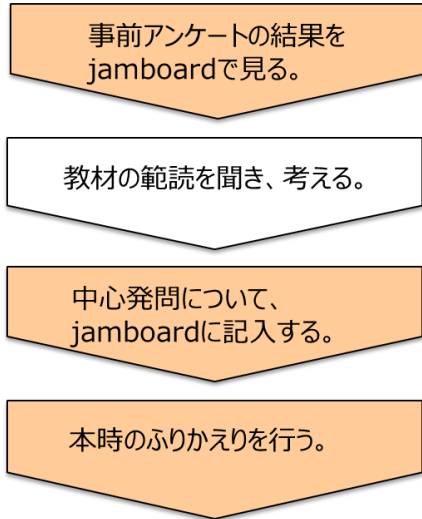
ICT活用のポイント

【活用したソフトや機能】 Google Classroom jamboard

・Jamboardの付箋機能を活用することで、他の人の意見を見ることができ、多面的・多角的な考えに触れさせ、より自分の考えを深めることができる。

学習の流れ

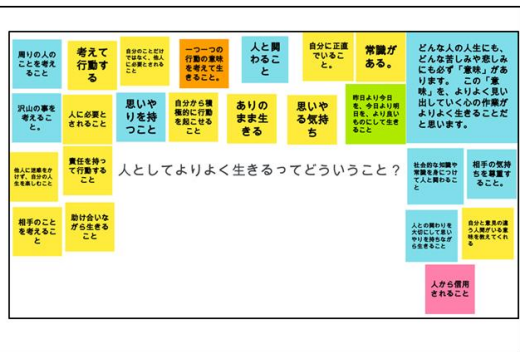
事例の概要



本事例は、Jamboardを活用することで、生徒一人一人の考えを可視化、他者の考えを相互に見合うことができるようにし、多面的・多角的な考えに触れさせ、より自分の考えを深められることを意図とした実践である。  
 導入では、JamboardやGoogleフォームを活用し、事前アンケートの結果や前時までの振り返りの結果を示すことで、本時のねらいの方向付けを行うこととなり、生徒一人一人が、学習のめあてを確認したうえで授業に臨むことができた。  
 展開では、中心発問において、班ごとのJamboardを用いて、意見の記入を行い、交流した。班になる必要がないため、移動時間を短縮することができ、効率的に話し合いを行うことができた。  
 終末では、本時の振り返りをGoogleフォームで行い、学習を端末上に蓄積していった。

# 【勝沼中学校・3年・道徳・よりよく生きる喜び】②

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



## ICT活用のポイント

本時の授業では、ICT活用のポイントとして、「①コロナ対応時の話し合い活動の代替的活動」「②考えの比較のしやすさ」「③班活動の時短」と考えて実践を行った。

実際の授業では、①について、話し合い活動に比べて、記述することに時間がかかるため、活動時間の確保が必要となった。また、話し言葉と書き言葉では、伝えられる内容にも違いが生じたように感じた。一度に、多くの生徒の考えに触れることができるという点では、大きなメリットがあったので、授業のねらいにそって、ICTを使った意見交流の場面と、実際の話合いの場面とを、効果的に取り入れていくことが重要である。

②について、記入と同時にボードに反映され、自分が書いている途中で他者の意見が目に入ってくる状態にあった。そのため、途中で書き換えている生徒もあり、思考に影響があるが、どのように思考が変化したか可視化されにくかった。個人で考えを深める時間と、様々な考えに触れる時間の効果的な組み合わせを検証していく必要がある。

③については、移動の必要がないため、その分時間を短縮することができた。ここで短縮させた時間を、どのように生かしていくか、1時間の授業の中で、よりよい時間配分を考えていくことが重要である。

### 3. 研究授業の概要【社会】

(1) 単元名 第2部 日本のさまざまな地域 第3章 日本の諸地域 4節 中部地方(中学2年)

(2) 本時の目標

- ・中央高地の自然環境を生かした農業の変化と、交通網の発達を関連させて理解している。【知識・技能】
- ・中央高地の中心的な産業の変化について、自然環境や歴史的な経緯、交通網の発展と関連付けて説明している。【思考・判断・表現】

(4) 本時の評価

- ・中央高地の自然環境を生かした農業の変化と、交通網の発達を関連させて理解している。
- ・中央高地の中心的な産業の変化について、自然環境や歴史的な経緯、交通網の発展と関連付けて説明している。

(5) ICT活用のポイント

Google ジャムボードの付箋機能を活用することで、各自が調べた情報を整理し、その後班内での対話を通して共有し、より学習を深めていく。

(5) 展開

過程	学習活動及び学習内容	指導上の留意点	評価規準 評価方法	資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中央高地(長野・山梨)で生産がさかんな農産物や工業製品を確認する。</li> <li>・提示された農産物・工業製品が山梨と長野、どちらの日本一か予想する。</li> <li>○学習課題をつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物や工業製品の写真を<b>大型モニターに提示</b>する。</li> </ul>		大型モニター  Chromebook
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">             中央高地でさかんな産業は、どのようにして発達してきたか？           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートに本時の学習課題を記入し、予想を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想したことを検証するための見通しを立てさせる。どんな資料や情報があればよいか考えさせる。</li> </ul>		振り返りシート
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長野のレタス栽培、山梨の果樹栽培、長野や山梨で見られる電気機械の生産がさかんな理由を調べてまとめる。(20分)</li> <li>・クラゲチャートに、産業発達の理由と考えられることを記入して整理する。</li> <li>・山梨の養蚕と諏訪盆地の製糸業とのかかわりにも注目する。</li> <li>・生糸の需給の変化の様子を調べる。</li> <li>○班ごとに、自分が調べてわかったことを発表し合い、情報を共有する。</li> <li>・諏訪盆地の製糸業と精密機械工業の共通項。</li> <li>・甲府盆地の養蚕と果実栽培の共通項。</li> <li>○<b>jamboardにまとめる。</b></li> <li>・<b>情報共有で確認したことを、班内で分担してjamboardにまとめる。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>Chromebookにスライドで資料集を提示</b>(諏訪盆地の製糸業の原料入手先、甲府盆地の蚕の繭の輸送先、生糸の生産量や輸出入の変化のグラフなど)</li> <li>・<b>chromebookを使用して、スライドの資料</b>や自分で検索してわかったことをワークシートにチャート図を使って整理させる。</li> <li>・<b>jamboardに、班ごとにまとめていく。</b></li> </ul>	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 ワークシート	ワークシート  Chromebook
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○班ごとに作成したまとめを各自の<b>chromebookと大型モニターで提示</b>しながら発表をする。</li> <li>○振り返りシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表した内容から、甲府盆地と諏訪盆地の産業の変化に関わりがあることに気付かせる。</li> </ul>	【思考・判断・表現】  振り返りシート	大型モニター Chromebook  振り返りシート

## 【勝沼中学校・2年・社会科・日本の様々な地域 中部地方】①

### 育成を目指す資質・能力

【活用場面】C2（協働での意見整理）

産業の変化について、自然環境や歴史的な経緯、交通網の発展と関連付けて説明できる。

### ICT活用のポイント

【活用したソフトや機能】 Google Classroom Google Jamboard

Google Classroom で配付された資料を基に産業の発展について調べ、班の意見をJamboardでまとめる。

### 学習の流れ

中央高地でさかんな産業を確認する。

どのように発展してきたかを資料をもとに調べる。

班ごとに調べたものを発表し、Jamboardにまとめる。

Jamboardを活用し、全体に発表する。

### 事例の概要

中央高地で盛んな産業について、どのように発達してきたのかを、資料を基に調べ、Jamboardでまとめて発表するという授業実践である。

まず大型テレビに中央高地で盛んな産業や農業について提示し、本時の学習の見通しと興味を持たせた。

その後、なぜ盛んなのかを調べるための資料を、個々のICT端末に配付した。生徒は、配付された資料等をもとにワークシート（プリント）のクラゲチャートに、それぞれが考えと理由を記入した。

個での作業が終わった後、班で意見を発表し合い、それらをJamboardにまとめた。

最後にJamboardを利用し、全体に発表し、考えを共有した。

## 【勝沼中学校・2年・社会科・日本の様々な地域 中部地方】②

### 【事例におけるICT活用の場面①】



### 【事例におけるICT活用の場面②】



### ICT活用のポイント

今回の授業では資料の配付をICT端末を利用して行った。印刷をすると、どうしても画質が落ちてしまう資料もきれいなまま、時間をかけずに配付することができた。

一方で、ワークシートはプリントとして配付した。ICT端末を使っての入力に慣れていない生徒に配慮したもので、当然ながら、無理なく記入することができていた。タイピングの速度や精度に差があるうちは、ワークシートはプリントに手書きの方式が、適していると考えられる。しかし、将来的には、ICT機器を使う入力も当たり前ができるよう、ICT活用スキルを伸ばす取組が必須であると感じた。

資料からの読み取った情報をクラゲチャート（下画像）にまとめる場面では、配付された資料だけでなく、教科書を参考にしたり、Webで検索したりする生徒も見られた。ただ、情報の正確性などを確認せずに、クラゲチャートに記入する生徒もあり、メディアリテラシーについての学習の必要性を感じた。

意欲的に調べ学習を行っていたが、時間が足りず、本時の授業は班での発表までとなった。

次時、Jamboardでまとめ、発表を行った。